

参考図書リスト

フクモ陶器の愛読書や本書制作中に参考にした本など、フクモ陶器の世界をさらに深めるブックリスト。古書店や図書館も活用して探してみてください。

フクモ陶器 編

- ①『山海経』(各種) 王新禧 *中国語
中国語版ばかり3冊。お土産で貰ったり、おまけの帝江トートバッグ欲しさに買った色々。古代中国の地理書、となっているが、地理どころの騒ぎではない。
- ②『極秘奥傳 まじない秘法大全集』棟田彰城(修学社)
数年前に古本屋で出会って以来、愛用している。いろんなことに効くお札の書き方が載っていて、しかもそのお札の効き目がすごい。
- ③『日本陶磁大系 25 木米』満岡忠成(平凡社)
陶芸家の中で一番くらいに好きな青木木米の図録。
- ④『道教事典』野口鐵郎(平河出版社)
ミーハータオイストのフクモ陶器。道教のビジュアルのとりこ。この事典のおかげで、本書にも出てくる「荷物」の重大な間違いに気づけた。
- ⑤『道教の本』(学研プラス)
道教関係の本の中では、これを一番利用しているかもしれない。素人向けにわかりやすく、ビジュアルも満載。一度古本で買ったならなぜか非常にタイヤ臭くて、また買い直した。余談だけどこの本から「金石索」を知った。国会図書館のデジタルアーカイブに入っているので気になる人は見てみてね。「金索6巻石索6巻」【図A▶】がオススメ。
- ⑥『純文学の素』赤瀬川原平(白夜書房)
高校生の頃から赤瀬川原平さんが大好き。中でもこれは擦り切れるほど読んだ。今でも古本屋で見つけたらつい買っちゃう。ので何冊か所持。「辺境を探る」が特によい。
- ⑦『諸怪志異 壺中天』諸星大二郎(双葉社)
どれも好きだけど。



- ⑧『天からふってきたお金』アリス・ケルジー[著] 岡村和子[訳](岩波書店)
小学生の頃図書室で出会って以来大好き。フクモ陶器のその後の人生観に大きな影響を与えているような気がする。トルコでは、日本における「一休さん」みたいな位置付けらしい。
- ⑨『神隠し 異界からのいざない』小松和彦(弘文堂)
異界の話が満載だ。

- ⑩『仙境異聞・勝五郎再生紀聞』平田篤胤(岩波書店)
⑨からの流れで。天狗に攫われた少年・寅吉について平田篤胤が調べる。絶版になっていたが、何年か前にテレビでこの本が取り上げられて、ブームになって再版になったらしい。

- ⑪『屏風の中の壺中天』ウー・ホン[著] 中野美代子、中島健[訳](青土社)
絵の中に描かれる絵(の中に描かれる絵)についての中国絵画論。図版多数。

- ⑫『屁珍臭匂臭』山名正太郎(泰流社)
少し前にXで見かけて「なんだこれは!」と入手した。この本のおかげでフクモ陶器も本書を書く勇気が出た。巻末の著者紹介のコーナーに少し狂気を感じる。

- ⑬ 図録「平賀源内展」(東京新聞)
⑫にも少し出てくる平賀源内。「源内焼」っていう陶器をこの図録で初めて知ったが、インチキ臭くてとてもよい。この人のことをもっと詳しく調べてみたい。

- ⑭『神秘家列伝 其ノ壺』水木しげる(角川ソフィア文庫)
未読の方はぜひ!

- ⑮『外骨という人がいた!』赤瀬川原平(白水社)
宮武外骨は最高。そういえば、平賀源内も外骨も讃岐人。フクモ陶器は父方が讃岐人。それで惹かれるものがあるのかもしれない。



図A：国立国会図書館デジタルコレクション「金索6巻石索6巻」より



- ⑯『仇英』警英(中国書店) *中国語
仇英の絵は、しれっととぼけた感じでとても好き。
- ⑰『からだのなかのタオ』石田秀実(平河出版社)
禹歩について詳しく知りたくて読んだ。
- ⑱『桃源郷の機械学』武田雅哉(作品社)
たまたま先日古本で買ったら、宇宙卵のことか出てた。あと、髑髏のあやつり人形の絵のことが出てくるんだけど、フクモ陶器が「内臓あやつり人形」と「形体あやつり人形」を作ったすぐ後だったので非常に驚いた!まるで、こないだの個展のアンチョコではないか……!
- ⑲『星の宗教』吉田光邦(淡交社)
古今東西の、星への信仰についての本。図版も多数。
- ⑳『スプーン 超能力者の日常と憂鬱』森達也(飛鳥新社)
『スプーン』は品切れだが、現在は『職業欄はエスパー』というタイトルになってる模様。内容は同じ)「超能力者」の日常や人生について書かれた本。この視点の本ってあまりないのでは。
- ㉑『トポロジーの絵本』G.K. フランシス[著] 笠原 皓司、宮崎 興二[訳](シュブリンガー・フェアラク東京)
今、またポアンカレ関係のものを作っているんで、図書館で借りた。やっぱりさっぱりわからないが、この本は図版がめっちゃ面白い。



庄子結香 編 * () 内のページ数は「無用芸術 フクモ陶器」掲載箇所

【神話と科学】フクモ陶器のモチーフと背景を学ぶ

- ①『中国の神話伝説』袁珂[著] 鈴木博[訳](青土社)
天地開闢 (p8) や伏羲と女媧 (p31) などフクモ陶器のモチーフとして表される中国神話についてとても詳しく解説されている。山海経や道教など他の本などいったりきたりしながら、フクモ陶器との点と点をつないでくれる。
- ②『山海経』高馬三良[訳](平凡社ライブラリー)
表紙にも登場する頭のない象のような生き物帝江 (p145) や海球儀でさらっと出てくる文よう魚、何羅魚 (p133) などが紹介されている、著者も制作年も不特定な古代中国の空想地理とそこに住む生き物ガイドブック。

